

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	SOU NEXT 伊佐				公表日	R8年 5月 22日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6名	1名	学習室、療育室、プレイルームなど場面に応じて療育環境を分けて過ごすことができている。	壁の汚さや穴が空いている状態は保護者様から気になるというお声も上がっているため、改善していただきたい点です
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7名		3つの部屋があるが、その部屋に1名ずつ配置することができ、なおかつ広めのプレイルームでは2人のスタッフが配置できる状態を作ることができている。	どうしても時期や感染症の視点からは少なくなる事もありますが、そこは会社とも連携しながら解決まで必ず行っております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切に なされているか。	5名	2名	各部屋の名称や、声の大きさの目安、事業所でのルール等貼り出しており見て分かるように工夫している。	わかりやすい構造になっているが、建て付けの扉の場所が多く、児童の特性上、壁に登ったりぶら下がったりする児童もいるため、安全性に不安があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5名	2名	感染症対策として必ず毎日、消毒、換気は徹底しております。引き続き継続していきながら事業所運営を行っております。	活動に合わせて部屋を分けて使えるようにしているが、壁の汚さや施設の老朽化を感じる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7名		学習室や事務所を活用して静養室として利用も行なっています。児童の中には自分で環境を作ったりする児童もいたりするのでその場に合わせたしっかりと環境を作る事を心がけております。	③の質問同様、壁が建て付けのため、気持ちの切り替えで個別の部屋を望んだ児童が、気持ちのコントロールが難しく、壁に当たってしまうと故障や怪我の恐れがある環境です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7名		普段よりミーティングを行いながら児童の様子、報告を行っております。気になった事に関しては児発管を中心として「なんでかな?」とより原因や背景まで考え保護者、学校、その他含めて情報を求めるまで必ず行なっております。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7名		保護者アンケートや日々の送迎時にも困り感や要望の聞き取りを行っている。得られた意見は職員間で共有し、支援や業務改善につなげている。	家族支援を大きく活用しながら提供も引き続き継続していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7名		日常的にこうしていきたい!というお話が自然にできるチームである。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5名	2名	実地指導や保護者アンケートを参考に、記録の残し方や、法令遵守、課題の考案を行なっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7名		会社内で、というよりも児発管よりこうゆうときはどうする?や、法的な部分を日常的に話してくれることが多い。スタッフとしてはただのコミュニケーションに感じているが、内容は研修で取り扱ってもいいような内容が多い。	会社としても研修の部分は構築しているので質を高めていきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7名		毎月療育プログラムの作成と保護者、児童に周知をしております。時には保護者様からの声や児童からの声も入れながらプログラムを行っております。	地域社会へ向けた課題を多く取り入れていきます
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7名		こちらは児発管が中心となりアセスメントや聞き取りを行いながら作成も行っております。その後の周知も時間を作り共有する場も適時に行いながら取り組んでいます。それでも、療育現場にも難しい場面も多くありますので優先順位もしっかりと作り対応していきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7名		モニタリングなどもスタッフが参加したりと共有する場を求め方も多く、そこにつきましても従業員のみんなできちんと決めてミーティングを行い情報共有をする事も作っております。	OJTの方、専門支援による保護者への聞き取りなども増やしていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7名		情報共有がどの様に上手く出来るのかは今後も課題としてはありますが、普段からどこに情報があり確認ができるのか?を周知しながらスタッフ間での連携が日々できる様に取り組んでおります。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6名	1名	ソフトを使い適切な流れで保護者様とモニタリング、ニーズのヒヤリングを行い、ウィスク検査結果の共有を促している。また朝礼にて児童の様子を共有し支援に繋げている。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7名		本人支援では個別支援計画に基づいた児童の課題を活動の中で支援している。 家族支援では定期的なモニタリング等でヒヤリングを通し保護者様の意見を支援の参考情報として伺っている。移行支援では、部活動に入る予定になると事業所利用日を調整し、円滑な移行を促せるように様子を共有している。	・地域社会への参加をより今後は検討しながら児童や保護者様が安心できる支援の質を高めます。 ・移行支援は継続して行いながら高学年に向けた支援も継続して行います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7名		課題の担当はあらかじめ決めて、主に担当者が進めるが、どういった内容を行うかの相談や、どのような課題がより良いかの相談を行なっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7名		児童や保護者様からの情報を参考にしながら課題の担当はあらかじめ決めて、主に担当者が進めるが、どういった内容を行うかの相談や、どのような課題がより良いかの相談を行なっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6名	1名	グループワーク、集団行動も多く作り苦手だけどこままでできるのかを引き出しながら児童に合わせて提供しております。 また、専門的支援も強化し楽しく取り組めるよう今後も提供していきます。	集団活動中心になり、個別支援の時間確保が難しい場合があるので今後も環境を工夫しながら提供します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7名		必ず毎朝、お昼前にはミーティングを行い1日の流れ、予測、前日の様子までも情報共有を行なっております。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4名	3名	打ち合わせという時間を設けてはいないがその都度全員が集まった時に話をしたり、気になった児童は必ず共有し支援を検討することもあります。	自然の流れで共有はしていますが設ける時間も今後は徹底に作りながらより質の高い情報を連携していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7名		支援、療育に関しても日々記録をつけながら児童1人ひとりの様子も残しております。 そこから気づきやモニタリングなどへ情報提供が出来る様にも毎回活用しております。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7名		関係機関での場、相談支援員など保護者様とも一緒に面談を行いながら開催している。その際に必ず、現状の様子から次の目標設定まで話を行い同じ方向性が確認出来る様に意識して取り組んでおります。	会議の情報等はデータ化しているが確認するなどより見やすい作りは必要なので改善します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7名		運動・SST・創作・余暇活動を組み合わせたプログラムを実施している。児童の発達段階や特性に合わせ、日常生活に必要な力を身につけられるよう工夫している	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7名		課題活動の中で選択式にしたり、日々の関わりの中で自己決定を促す投げかけやコミュニケーションをとっています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7名		担当者会議は自発官、関係機関では自発官を含むスタッフが積極的に情報共有を行い、その件についても朝礼で共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5名	2名	現状では、学校とはより連携しながら情報交換する場を作ったりとそこに力を入れております。	地域との連携はまだまだ難しい部分もあるのでより連携体制がとれるように地域へ根ざしていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7名		支援クラスに在籍している児童が多いので、先生たちにはカレンダーを配布したり児童が毎週何曜日に福祉サービスを利用しているのかを把握できる様にも環境を作っております。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7名		未就学児のお子さんや新規児童の場合では必ず事前面談を行いながら情報を確認します。相談員からも情報を貰いながら保護者様の意向や本人情報を照らし合わせて支援の方向性を一緒に検討しております。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6名	1名	まだ就労支援などに移行する児童はございませんが、高学年の保護者様には会社としても就労選択支援、就労支援B型まで一連としてサポート出来る環境があるとタイミングを見ながら情報を提供しております。	スタッフによっては対応やどんな流れで進めて行くのかなどは難しい部分があるので社内でも共有しながら進めていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3名	4名	地域の児童センターとの交友関係は作りながら関われる環境は作っております。	地域のセンターを利用している児童もいるので相談が必要なケースを早期に抽出し、定期的に連携できるよう仕組みを整えます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7名		他事業所や児童館、センターとの交流を増やしながらか地域の子どもたちと関われる機会も増やしております。	こちらはまだまだ取り組んだばかりでもあり多くの環境や機会を作っていきます。 ※感染症予防として時期や内容に変更は生じる事もあります。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	2名	5名	役所管轄の児発管集いは参加しておりますが今後機会を作り参加出来る様に努めてまいります。	積極的に参加できるような工夫をしていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7名		普段から情報提供を多く行なっております。自宅での様子、学校での様子などもスタッフから聞き出しながらまとめて支援へ活かせる様に普段からもコミュニケーションは多く取る様にしております。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6名	1名	課題や余暇時間の様子を共有し、支援の共通理解や課題の内容把握につなげ、家庭と連携を取れるように工夫している。事業所でどのように支援をしたかの作法を共有し、アドバイスしている。	研修などはまだ設けられていないので事業所としても改善していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7名		必ず契約時には細かくご説明を致しております。また、わからない事があれば管理者が早急にご対応する環境を作っております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7名		色々な面談、モニタリングを通し、時には家族支援を行い本人交えて場を提供する事も行っております。時間が限られる事が難しい部分もありますが引き続き保護者様とも連携しながらご対応していきます。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7名		児発管による作成後、ご説明やご署名を徹底しております。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7名		スタッフ皆さんが支援に関する事、お手本となる様に常に意識はしております。分からないことをそのままにしない事、聞かれてしまったから曖昧に答える事はせずに必ず管理者、児発管まで情報を求める環境を作っております。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5名	2名	山登りやクッキングなどの課題で保護者会を設け、児童に対する支援を直接見学できるように。兄弟も参加可能であり、それを踏まえて支援のニーズのヒアリングを行っている。	保護者会を設けているが、保護者の方向士で意見を交流しやすい環境づくりには課題が残るので工夫しながら保護者同士での場を提供していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7名		事業所利用日以外で起きた出来事を伺い、早めの児童受け入れや、その事案を分析して課題に落とし込むなどを行なっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7名		事業所LINEにて、毎月のカレンダー周知や日々の細かな連絡を取り合っている。また、Instagramなどで日々の活動の様子を発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7名		必ず同意書を貰い、毎日鍵がついている倉庫にて管理を徹底しております。SNS等もチェック体制を作り必ず2人以上で対応しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7名		絵カードを使用したり、選択肢を与えて指差しで答えてもらうなど、意思疎通を行える工夫をしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4名	3名	会社として子供食堂でカレーを提供したり、福祉祭りとして地域の児童も参加できるイベントを図っています。	事業所としてはまだ難しいので今後は地域社会との交友を作っていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6名	1名	こちらは必ず研修も行なっております。日々の中でしっかりと確認出来る様にフロー、書類なども整備しております。	研修はありますが実践的な研修は今後の課題として事業所内で行っていきます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7名		会社としても研修を行なっております。また、事業所内でも感染症や災害に関しましては訓練を行いながらその様子なども保護者様へ周知も行ってまいります。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6名	1名	てんかん発作児童はいないが、対応策は研修にて学習、服薬の際は事前に保護者から与薬許可証を書いてもらい、事業所で与薬する体制を整備している。	薬がある児童など児童が持ってきていて飲んでいた場面もあるのでしっかりとした保護者様と共有をしていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5名	2名	独自のお菓子の提供や購入などは活動通してございます。それに伴い、アレルギーがある児童には本人にも説明を行いながら保護者様に準備していただきながら対応を強化しております。	食物アレルギーの児童が現在いないので受け入れる場合にすぐ対応できるように体制を整えていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7名		内容にはまだまだ難しい部分もありますが、会社内での研修もありますので引き続き安全に事業所運営が出来る様に努めてまいります。	

へ 応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7名		緊急時において統一した連絡先の配布は避難訓練を行う時に必ず周知しております。事前にやむおえず拘束をして安全確保をする必要がありそうな児童の場合など、保護者に了承を頂き支援で対応している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6名	1名	必ず出来事があればその時に記録に残る様にしています。 会社内でも報告し、その後の児童や保護者様へのケアも必要に応じて行っております。	スタッフによっては内容の把握もまだ改善があるので改めて環境を作っていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7名		研修も行いながら、契約時には委員会の周知も必ず行っております。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7名		契約時にも必ずご説明、同意書を貰っております。事前にやむおえず拘束をして安全確保をする必要がありそうな児童の場合など、保護者に了承を頂き支援で対応しています。	実際に拘束があった場合は早急な対応が出来るようにスタッフへの研修を行っていきます。